

オンラインによるキャリア支援の取り組み - 新型コロナウイルス感染症対策を契機として -

著者	橋 修, 富田 京子, 猪股 歳之
雑誌名	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要
巻	7
ページ	123-131
発行年	2021-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/00131223

【特集・報告】

オンラインによるキャリア支援の取り組み ー新型コロナウイルス感染症対策を契機としてー

高橋 修^{1)*}, 富田京子¹⁾, 猪股歳之¹⁾

1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター

東北大学キャリア支援センターでは、新型コロナウイルス感染症対策を契機として、2020年3月から順次、対面状況による支援からオンラインによるキャリア支援に切り替えてきた。本稿では、①東北大学行動指針(BCP)とキャリア支援センター全体としての対応、②学生に対する支援、③保護者への対応、④企業・団体等への対応について、約6か月間に渡る取り組みを報告するとともに、そこから見えてきた今後の課題について言及する。

キャリア支援のオンライン化により、対面状況での支援よりも改善したことがある。例えばセミナーでは、オンデマンド配信したことにより、前年度よりも視聴者が増加した。また、オンライン個別相談によって、医学部・医学系研究科の学生の利用率が増加した。これらは、時間的制約や地理的制約から解放されるというオンラインならではのメリットが顕在化したものといえる。一方、リアルタイム型のオンラインセミナーの開催、対面相談とオンライン個別相談との併用、個別相談時間や予約枠の拡充を望むニーズへの対応等、継続的にPDCAサイクルを繰り返し、キャリア支援に対するニーズに応え、学生の満足度を向上させていくことが今後の課題である。

1. はじめに

東北大学キャリア支援センターは、「学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるよう支援すること」(東北大学キャリア支援センター 2020a: 113)を第一の使命として掲げ、以下のようなキャリア支援プログラムを実施している。

(1) 全学教育(正課教育)

キャリア教育科目として、これからの大学生活を考える「ライフ・キャリアデザインA」、自己理解を深め、将来のキャリアを考える「ライフ・キャリアデザインB」、よりアクティブに学ぶ「フィールドワーク実践: 地域とビジネス」や「インターンシップ事前研修」「インターンシップ実習」などを開講している。

(2) フェア

インターンシップや進路・就職に関する情報を提供する学内での合同説明会である。多くの企業・団体等と学生が出会う「場」として企画している。就職希望者を対象とした「キャリア就職フェア」(3月)や、全学年を対象とした「夏のインターンシップフェア」

(6月)、「冬のインターンシップフェア」(11月)を開催している。

(3) セミナー

キャリア支援センターでは、学生のキャリア発達を4つの段階、すなわちStep1: 大学生活・進路を考える、Step2: 自分を知る、Step3: 社会・仕事を知る、Step4: 就職活動に備える、に区分している。そして、「大学生活と進路を考えるセミナー」「自己分析セミナー」「業界・仕事研究セミナー」「就職活動の進め方セミナー」など、それぞれのキャリア発達段階に必要な知識を伝えることを目的として、正課外のセミナーを開催している。

(4) ワークショップ

ビジネスマナーやコミュニケーション能力など社会で求められるスキルの習得、グループディスカッションや個別・集団面接といった採用選考対策などをテーマとして取りあげ、少人数のグループ単位で実践的に学ぶ機会を正課外のワークショップを提供している。

(5) 個別相談

進学や進路選択、インターンシップ、就職活動の進め方、公務員試験対策、理系学生向けの研究概要書添

*) 連絡先: 〒980-8576 仙台市青葉区川内41 東北大学高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター

表1. オンラインによるキャリア支援の取り組み

年月	2020年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北大学行動指針 (BCP)			L3 (4/8)	L4 (4/17)	L3 (5/18)	L2 (6/1)	L1 (6/19)	改訂L1 (7/21)	改訂L1 (9/8)
キャリア支援センターの対応			利用停止 (4/10)		一部利用再開 (6/8)	独自BCP作成 (6/19)		独自BCP改訂 (8/29)	
学生	フェア電子版のWebページ開設	東北大学キャリア就職フェア電子版(3/12-5/31)				夏のインターンシップフェア電子版(6/10-9/30)			
	セミナー動画のオンデマンド配信			配信①(5/14) 配信②(5/20) 配信③(5/26)	配信④⑤(6/1) 配信⑥(6/12)				
	オンライン個別相談		オンライン個別相談開始(4/13-現在) Web予約開始(4/16-現在)						
	Web経由の情報提供		東北大学キャリアガイド2020(PDF版)の配付(4/10-現在)						
	情報発信(B4/M2)	Web面接の注意点(3/9)	就職活動中の皆さんへ①(4/10)		就職活動中の皆さんへ②(5/20)		就職活動を迎える皆さんへ②(6/29)		
	(B3/M1) (留学生)		外国人留学生の就職支援(4/10)		就職活動を迎える皆さんへ①(5/20)				
保護者	Web経由の情報提供								保護者のための就職支援ガイド(PDF版)の配付(10/19-現在)
企業	情報発信(依頼)		採用活動におけるウイルス感染症拡大防止対策(5/20)						
	オンライン面談(訪問対応)					オンライン面談開始(7/20-現在)			

削や技術面接対策などについて、事前予約制での個別相談を実施している。

また、以上のような学生を対象としたキャリア支援プログラムに加えて、保護者を対象としたセミナーの開催、企業・団体等からの求人受付や人事・採用担当者との面談なども行っている。

従来、これらの活動はすべて、講義室、キャリア支援センター内のオープンスペースや個別相談室における対面状況の下で実施してきた。しかし、2020年に入ってから以降、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される状況となってきたことから、キャリア支援センターの活動についても、感染拡大を防止し学生の健康と安全を守る対応策が求められるようになった。そこで、2020年3月から順次、対面状況による支援からオンラインによる支援に切り替えてきた(表1参照)。

本稿では、新型コロナウイルス感染症対策を契機としたオンラインによるキャリア支援について、約6か月間に渡るこれまでの取り組みを報告するとともに、そこから見えてきた今後の課題についても言及する。なお、上記(1)の全学教育(正課教育)については別の機会に譲ることとし、第2章では東北大学行動指針(BCP)とキャリア支援センター全体としての対応について述べ、第3章では学生を対象とした上記(2)～(5)の支援、第4章では保護者への対応、第5章では企業・団体等への対応について述べた上で、第6章で今後の課題についての考察を行う。

2. 東北大学行動指針(BCP)とキャリア支援センターの対応

東北大学では、4月7日に行動指針(BCP)を制定し、その翌日からレベル3の態勢に入ったが、さらに新型コロナウイルスの感染拡大状況が続いたことから、4月17日には段階をレベル4に引き上げられた。その後、BCPレベルは5月18日にレベル3、6月1日にレベル2、6月19日にレベル1へと引き下げられてきた。また、7月21日と9月8日にはBCPの改訂が加えられ、当初は「研究活動」「授業(講義・演習・実習)」「学生の課外活動」「学内会議」「事務体制」の5項目についての記載だったものが、さらに「出張」「学生の旅行」「催事・イベント等(本学が開催するもの)」の3項目が追加されるとともに、「警戒情報」欄も設けられ、よりきめ細かい方針の発出が可能になっている。

キャリア支援センターにおいても、本学のBCPを踏まえ、活動内容の絞り込みや実施方法の変更なども余儀なくされたが、この時期は3月からの就職活動の本格化の時期と重なっていたことから、キャリア支援センターとして可能な限り学生の就職活動を支援するための方策を検討し、実施してきた。個別の取り組みの具体的な内容は3章以降に譲るが、ここではキャリア支援センターの活動全般の大まかな流れを整理しておく。

3月は、「キャリア就職フェア」の開催中止を受け、そのオンライン化を急ピッチで進めるとともに、オン

ラインでの選考活動増加に対する学生向けの情報提供、個別相談のオンライン化の準備などに取り組んだ。

4月には、本学BCPの制定やBCPレベルの引き上げなどを受けて、4月10日から学生のキャリア支援センター利用を中止し、外部者の入室も原則として不可とした。また、オンラインでの個別相談とそのWeb予約を開始するとともに、当センターのホームページからの情報発信を進めた。

5月に入ると、就職活動中の学生向けの支援に加え、就職活動を翌年に控えた学部3年生や修士1年生向け支援を開始した。学生や企業・団体等向けにホームページから情報を発信するとともに、学生向けにセミナー動画のオンライン配信などを行った。

6月には本学BCPレベルの引き下げを受け、感染予防対策を講じた上で、6月8日から学生の当センター利用の一部（就職関連書籍の閲覧や貸し出し、OB・OG名簿の閲覧、公務員試験の過去問題の閲覧、求人票閲覧等）を再開した。6月19日にはこうした内容も含め、当センターの事業運営の方針をまとめたキャリア支援センターBCPを策定した。また、対面での開催を予定していた「夏のインターンシップフェア」もオンラインでの開催に切り替えて実施した。

7月以降は上記の取り組みを継続するとともに、企業・団体等からの訪問要請に対応するため、オンラインでの面談を開始した。また、本学BCPの改訂を受け、当センターBCPも改訂して運用している。

3. 学生に対する支援

3.1 フェア電子版のWebページ開設

「キャリア就職フェア」は、キャリア支援センターが実施している事業の中でももっとも大規模な活動である。2018年度には、5日間で企業・団体等340社、学生4,900名が参加している。2019年度も3月1日からの5日間で同規模の企業・団体等340社の参加を予定していたが、2月25日に開催中止が決定し、企業対応等に追われた。一方で、中止による学生への情報提供機会の損失の影響は計り知れず、企業・団体等から学生に企業情報や採用情報を提供するとともに、学生が企業・団体等に関心を持っていることを表示するために個人情報を提供するための機会を設けるため、

Webサイトを構築することとした。

各企業・団体等のページは、フェア当日に配布する予定だったパンフレットの原稿、説明会プレゼンテーション用資料、テキストメッセージを掲載できるほか、学生からのエントリーを受け付けるページへのリンクを設けることができる構成とした。構築作業は急ピッチで進められ、「東北大学キャリア就職フェア電子版」として3月6日から企業・団体等の情報登録を開始し、3月12日から学生向けに公開し、5月末日まで運用した。

なお、企業・団体等による情報の追加登録は300社に満たず、この時点では企業・団体等の側においても対面型からオンラインへの切り替えがスムーズとは言えないところもあったことがうかがえる。また本学学生のアクセス状況も正確に把握することができなかったため、6月から公開を開始した「夏のインターンシップフェア電子版」サイトでは、アクセス数のカウント方法に改良を加えている。

3.2 セミナー動画のオンデマンド配信

キャリア支援センターでは、それぞれの発達段階に必要な知識を伝えることを目的として、正課外のセミナーを講義室において対面形式で行ってきたが、今年4月以降開催予定であった前期セミナーを全てオンライン（セミナー動画のオンデマンド配信）に切り替えて実施した。その際、Google Driveを使用することで、東北大学に在籍する学生に限定した視聴環境を整備した。

「インターンシップ概要と押さえるべきポイント」（5月14日配信）、「インターンシップ選考対策（全般）」（5月20日配信）、「インターンシップ選考対策（自己分析）」（5月26日配信）、「インターンシップを利用した業界研究・企業研究（文理別）」（6月1日配信）、「インターンシップ参加に向けたビジネスマナー」（6月12日配信）の計6講座の配信を行った。

8月末日までの視聴者数（6講座合計）は、984名であった。前年度同時期開催セミナー（対面型6講座）の参加者数は821名であり、約20%の増加となった。

3.3 オンライン個別相談

3.3.1 個別相談のオンライン化

前述のとおり、キャリア支援センターでは、従来から事前予約制にて対面での個別相談を実施している。相談員は、専任教員、特任教員および非常勤相談員10名が担当し、年間延べ約3,000件の相談に対応している。

しかし4月からは、新型コロナウイルスの感染症対策として「三つの密」を避ける観点から、個別相談の実施場所を従来の個別相談室からオープンスペースに切り替えた。さらに4月13日からは、Zoom やGoogle Meetを用いたビデオ通話による個別相談（以下、オンライン個別相談という）を実施することとした。併せて、キャリア支援センターの窓口や電話での予約受付から、当センターホームページでのWeb予約方式に切り替えた。

3.3.2 オンライン個別相談の特徴

先行研究によれば、オンライン個別相談では、機器の不具合が発生しやすい、通信環境が不安定になりやすい、ハッキングや情報漏えいなどセキュリティ上の問題がある、タイムラグが発生するなど技術的なデメリット（松田・岡本 2008: 117; 日本学生相談学会 2020: 1-5）や、表情、ジェスチャ、口調、声のトーンなどの非言語的レベルでの情報収集が制限される点（岡本・松田 2008: 93; 富田・林 2018: 3-16; 日本学生相談学会 2020: 4）等が指摘されている。

他方、オンライン個別相談は対面での個別相談に比べて、話しやすく、緊張しにくく、心が落ち着きやすいという研究結果もある（岡本・松田 2008: 95-96）。また、オンライン個別相談の導入によって、相談するための時間的・地理的制約や、直接人と話すことへの抵抗が軽減されるというポジティブな可能性を指摘する報告（中川・杉原 2019: 25-27）もある。

そこで、オンライン個別相談を利用した学生を対象としたアンケート調査を実施し、その回答データを定量的に分析することを通じて、オンライン個別相談の現状と課題を明らかにし、それを相談品質の更なる向上に活かすこととした。

3.3.3 アンケート調査の概要

オンライン個別相談を開始した4月13日から9月18日までに383名、延べ806件の相談が行われた。そこでこの383名を対象として、調査趣旨を説明したDCメールを送付し、Google Formでの回答を依頼した。なお、本調査の実施にあたっては、東北大学高度教養教育・学生支援機構の研究倫理審査委員会の承認を得た。その結果、9月23日から10月2日までの間に84名からの回答を得た。回答率は21.9%であった。

回答者の属性を表2に示す。学年では、学部4年生34.5%、修士2年生27.4%、修士1年生20.2%の順で多かった。学部2年生および博士1～3年生からの回答はなかった。所属では、文学部・文学研究科21.4%、医学部・医学系研究科14.3%、工学部・工学研究科11.9%の順で多かった。

表2. 回答者の属性

属 性		人数	構成比
学年	学部1年生	2	2.4%
	学部2年生	0	0.0%
	学部3年生	10	11.9%
	学部4年生	29	34.5%
	学部5年生	0	0.0%
	学部6年生	3	3.6%
	修士1年生	17	20.2%
	修士2年生	23	27.4%
	合 計	84	100.0%
学部・研究科	文学部・文学研究科	18	21.4%
	教育学部・教育学研究科	6	7.1%
	法学部・法学研究科	8	9.5%
	経済学部・経済学研究科	8	9.5%
	理学部・理学研究科	6	7.1%
	医学部・医学系研究科	12	14.3%
	歯学部・歯学研究科	0	0.0%
	薬学部・薬学研究科	2	2.4%
	工学部・工学研究科	10	11.9%
	農学部・農学研究科	7	8.3%
	国際文化研究科	0	0.0%
	情報科学研究科	0	0.0%
	生命科学研究科	3	3.6%
	環境科学研究科	3	3.6%
	医工学研究科	1	1.2%
	合 計	84	100.0%

3.3.4 アンケート調査の結果

オンライン個別相談の利用回数をみると、1回のみが50.0%と半数であり、1回から3回までの累計で約80%となっている（表3）。利用場所では、アパートや寮などの自室60.9%、研究室などの大学構内14.1%

表3. オンライン個別相談の利用回数・場所

属 性		人数	構成比
利用回数	1回	42	50.0%
	2回	13	15.5%
	3回	10	11.9%
	4回	5	6.0%
	5回	6	7.1%
	6回	3	3.6%
	7回	2	2.4%
	8回	2	2.4%
	9回	1	1.2%
合 計		84	100.0%
利用場所 (複数回答)	アパートや寮などの自室	56	60.9%
	宮城県内の実家	12	13.0%
	宮城県外の実家	11	12.0%
	研究室などの大学構内	13	14.1%
	合 計	92	100.0%

表4. オンライン個別相談の相談内容

相談内容(複数回答)	人数	構成比
進学や進路選択に関する相談	25	23.6%
インターンシップに関する相談	14	13.2%
就職活動の進め方や内定に関する相談	44	41.5%
公務員試験対策などに関する相談	15	14.2%
理系学生向け相談	7	6.6%
その他	1	0.9%
合 計	106	100.0%

表5. 予約方法に関する感想

感想(対面相談の利用経験者のみ)	人数	構成比
以前の電話予約のほうが利用しやすい	3	8.3%
以前の窓口予約のほうが利用しやすい	4	11.1%
Web予約のほうが利用しやすい	29	80.6%
合 計	36	100.0%

の2つで計75%を占めている。一方、宮城県内または宮城県外の実家からの利用者は計25%であった(複数回答, 表3)。また、相談内容をみると、就職活動の進め方や内定に関する相談41.5%、進学や進路選択に関する相談23.6%、公務員試験対策などに関する相談14.2という順で多かった(複数回答, 表4)。

次に、オンライン個別相談が開始された2020年4月よりも前に、キャリア支援センターにおける対面での個別相談の利用経験を尋ねたところ、36名(42.9%)が経験者であった。そこで、これらの学生に対して、予約方法に関する感想を尋ねたところ、「以前の電話予約や窓口予約よりもWeb予約のほうが利用しやすい」という感想が80.6%と圧倒的に多かった(表5)。

再び回答者全員を対象として、オンライン個別相談を利用するメリットについて、9つの選択肢を示して5件法(1:全く当てはまらない~5:非常に当ては

まる)で尋ねた。そして平均点(5点満点)を算出した結果が図1である。「キャリア支援センターまでの移動時間が必要ないこと」4.56点、「自宅などで受けられるので、利用できる時間の選択肢が広がること」4.29点と時間的なメリットが上位となった。次に、「キャリア支援センターとは離れたキャンパスにいても利用できること」3.81点、「大学から遠方の実家にいても利用できること」3.76点と地理的なメリットが続いた。さらには、「あまり家から出たくない気分の時でも利用できること」3.50点と心理的なメリットも3点を超えていた。

オンライン個別相談のデメリットや不都合な点については、6つの選択肢を示して同様に5件法で尋ねた。図2は、それらの平均点(5点満点)を算出した結果である。「Wi-Fiなどのインターネット接続環境が不安定で、フリーズしたり切断したりしやすいこと」3.52点、「パソコン、タブレット、スマートフォンなど機器の不具合が発生しやすいこと」3.33点と技術的なデメリットが上位となった。また、「タイムラグが発生するので、会話の間合いがとりにくいこと」3.19点や、「モニター越しの会話のため、相談員との親近感を持ちにくいこと」3.18点とオンラインに固有なコミュニケーションに関するデメリットも3点を超えた。

最後に、今後望ましいと思う個別相談の実施形態を尋ねたところ、「対面とオンラインでの個別相談との併用」が79.8%となった(表6)。また、個別相談に対する要望を複数回答で尋ねた結果が図3である。「1回当たりの相談時間を長くしてほしい」24.3%や、「個別相談の枠を増やしてほしい」21.3%と相談機会の拡充を求める意見が多かった。また、「今後も、ビデオ通話による個別相談を実施してほしい」24.3%とオンライン個別相談の継続を望む声が多かった。その一方で、「対面での個別相談を復活させてほしい」という要望も16.0%あった。

3.3.5 アンケート調査結果に対する考察

今回のアンケート調査の回答率は21.9%と低いことから、結果の解釈には一定の留保が必要であるが、回答した学生は、オンライン個別相談に対して時間的なメリットや地理的なメリットを強く感じている(図

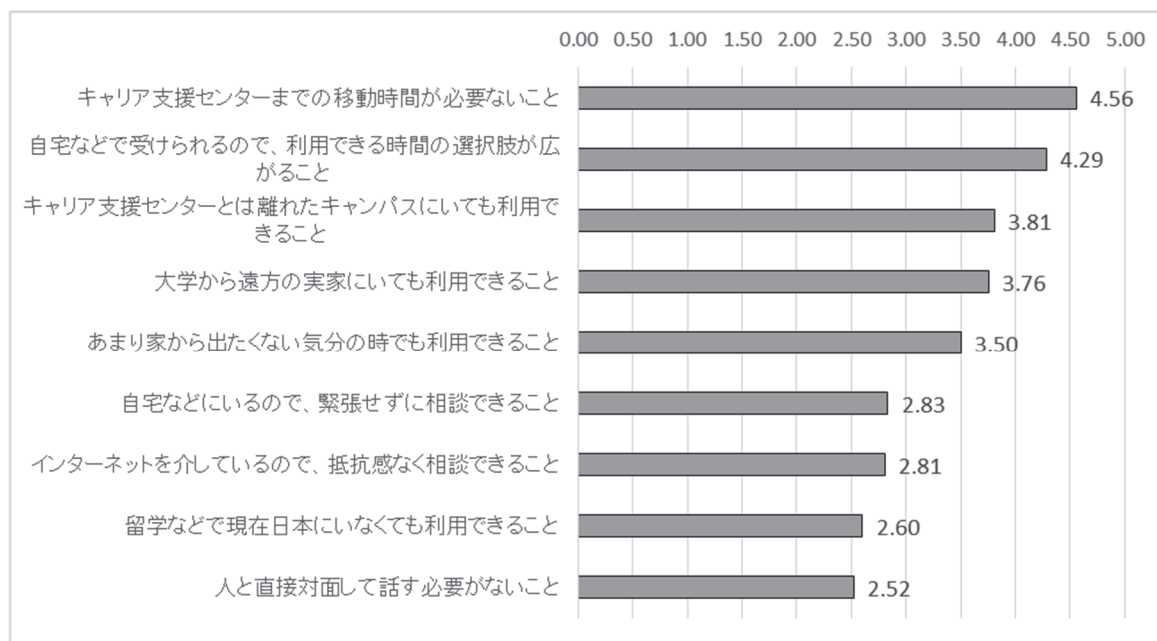


図1. オンライン個別相談を利用するメリット

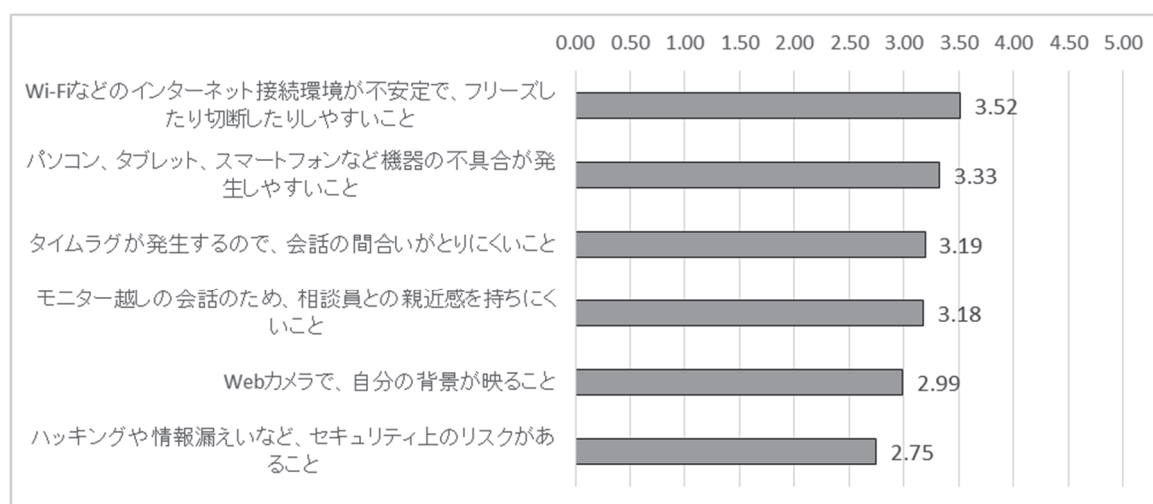


図2. オンライン個別相談のデメリットや不都合な点

1). 回答者のうち、キャリア支援センターから離れた星稜キャンパスにある医学部・医学系研究科が14.3%と2番目に多いこと(表2)は、こうしたメリットが活かした1つの証左といえよう(参考までに、2019年度における学部・研究科別利用者数では、医学部・医学系研究科は全体の6.0%である)。

また、回答者が多かった上位3学部・研究科別に図1の回答結果をみると、「キャリア支援センターまでの移動時間が必要ないこと」は、医学部・医学系研究科4.92点、青葉山キャンパスにある工学部・工学研究科4.70点、川内南キャンパスにある文学・文学研究科

4.67点である。さらに「キャリア支援センターとは離れたキャンパスにいても利用できること」については、同じ順に4.75点、4.00点、3.61点となっており、キャリア支援センターから距離が離れている学部・研究科の学生ほど、オンライン個別相談の時間的・地理的なメリットを感じている。

表6. 今後望ましいと思う個別相談の実施形態

選択肢	人数	構成比
対面での個別相談	6	7.1%
オンラインでの個別相談	11	13.1%
対面とオンラインでの個別相談との併用	67	79.8%
合 計	84	100.0%

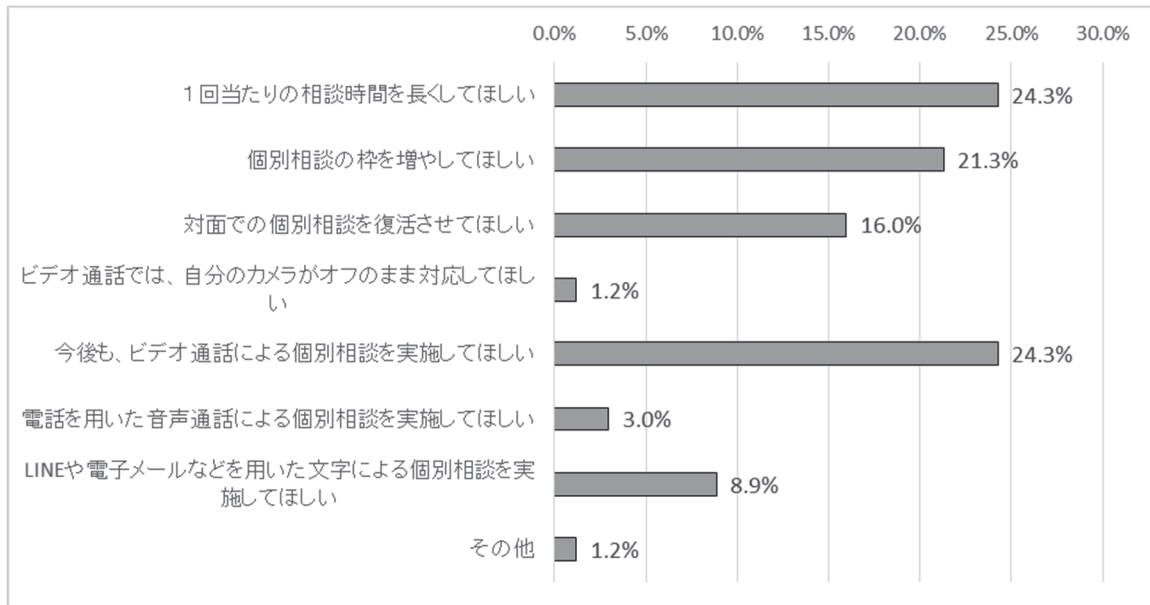


図3. 個別相談に対する要望（複数回答）

その結果、今後望ましいと思う個別相談の実施形態については、「対面とオンラインでの個別相談との併用」と「オンラインでの個別相談」を併せて90%を超えている（表6）。また、「今後も、ビデオ通話による個別相談を実施してほしい」とオンライン個別相談の継続を希望する意見も24.3%と多い（複数回答、図3）。さらに予約方法についても、「以前の電話予約や窓口予約よりもWeb予約のほうが利用しやすい」という感想が80%を超えている（表5）。

一方で、「対面での個別相談を復活させてほしい」（16.0%、複数回答、図3）との要望にも留意したい。学生にとって現在の選択肢はオンライン個別相談しかない。しかし、例えば「相談内容がエントリーシートの添削指導なので対面で相談したい」、「来週はキャリア支援センターの近くに行く機会があるので、対面で相談したい」という場合もあろう。反対に、「あまり外に出たくない気分なので、オンラインで相談したい」という時もある。つまり上記の要望は、学生自身の状況に応じて対面とオンラインのいずれかを選択できるようにしてほしいという意思の現れと解釈できる。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しつつ、インターネットの接続環境の不安定さやパソコン等の不具合、オンラインに固有なコミュニケーションの不自然さ等のデメリット（図2）を改善したり、1回当たりの相談時間や個別相談の予約枠を拡充してほ

しいという要望（図3）を踏まえたりしながら、対面での個別相談とオンライン個別相談とを併用していくことが求められるであろう。

3.4 Web経由の情報提供

キャリア支援センターでは、毎年『東北大学キャリアガイド』（東北大学キャリア支援センター 2020b）の年度版を作成して、新3年生および新修士1年生を対象に、4月のオリエンテーション時に各部局経由で配付している。

これは80ページからなる冊子で、学生の進路選択に必要な情報収集と就職活動のマナーやスキルの習得を支援することを目的に作成し配付している。掲載内容は、(1) 有意義な学生生活を送るための情報として「自分の進路を考える」「学生生活を充実させる」「キャリア支援センターを活用する」、(2) 希望進路別の採用選考などに関する情報として「大学院進学をめざす」「民間企業へ就職する」「公務員や教員をめざす」、(3) 就職活動の基礎知識とマナーに関する情報として「就職活動を進める」、そして(4) 直近2年間の進学・就職先実績を部局ごとに示した「卒業生・修了生の進路状況」および「参考情報」からなる。

2020年3月には、例年どおり各部局宛てに必要な部数を送付した。しかし、オリエンテーションがオンラインでの開催に変更となったことから、配付対象学生の

手元に届かないことも想定された。そこで、急きょ4月10日から、本冊子をPDFファイル化した上で、希望する学生がキャリア支援センターのホームページから申し込むことによって、学外からでもPDFファイルをダウンロードできるようにした。それ以降、93件の申し込みがあったことから、学外にいる学生に対するWeb経由の情報提供として、一定の効果はあったものとする。

3.5 対象者に応じた情報発信

3月に開催予定であった「キャリア就職フェア」の中止に伴う電子版への移行、対面での個別相談の中止に伴うオンライン個別相談への移行等を踏まえ、学生の不安軽減を目的として、対象者別にキャリア支援センターホームページで種々の情報提供を行った。

まず、前例のない就職活動を開始した学生に向けて、「Web面接・説明会の事前準備&注意点（3月9日）」を发出した。これは、Web面接やオンライン会社説明会が急増していることから、その対応のポイントを解説したものである。また、4月初旬には採用活動の状況についての解説、おすすめの情報源、キャリア支援センターの支援内容をまとめた「就職活動中の皆さんへ（4月10日）」を发出した。採用活動の状況については、就職情報会社の調査結果および担当者へのヒアリングを行い、その結果を要約した。同様に5月20日には第2報を发出した。

さらに、進路選択を考え始めた学生や本格的な就職活動を前にした、主に学部3年生および修士1年生に向けて「これから就職活動を迎える皆さんへ（第1報：5月20日、第2報：6月29日）」を发出した。そこでは、企業・団体等のインターンシップの開催見通しや先輩の就職活動の現状を就職情報会社の調査結果および担当者へヒアリングした結果を要約して情報提供した。その上で、キャリア支援センターの支援内容についても紹介した。

4. 保護者に対するWeb経由の情報提供

キャリア支援センターでは、例年6月頃に「保護者のための就活講座」を開催している。これは、全学年の保護者を対象として、現在の就職活動の流れや本学

卒業生・修了生の進学・就職状況を説明するとともに、就職活動に臨む学生に対する保護者としての支援の基本スタンスや支援内容・方法を伝えることを目的としている。2019年6月に開催した講座では230名を超える参加があった。

そして、2020年6月にも開催を予定していたが、新型コロナウイルスの余波で通常開催を断念した。そこで、代替手段としてWeb経由の情報提供を行うこととした。具体的には、当日に講演予定であった「コロナ禍で変化する新卒採用の現状と今後」および「東北大生の就活事情」の配付資料とともに、キャリア支援センターの活動紹介、保護者に期待する支援内容・方法、卒業生・修了生の進路状況を約70ページの冊子『保護者のための就活支援ガイド』（東北大学キャリア支援センター 2020c）として取りまとめた。そして、本冊子をPDFファイル化した上で、10月下旬からは希望者がキャリア支援センターのホームページから申し込むことによって、PDFファイルをダウンロードできるようにした。

5. 企業・団体等への対応

5月20日には、企業・団体等の採用担当者に向けて、「2020年度卒業・修了予定者の就職・採用活動におけるウィルス感染症拡大防止対策について（依頼）」をキャリア支援センターホームページで发出した。

これは、本学のBCP、および宮城県が緊急事態宣言解除に際し、5月14日に「新型コロナウイルス感染症対策（5月15日以降）」を发出したことから、採用活動において学生に県境を越えた移動や「三つの密」にある場への出席を求めることの自粛、多様な通信手段を活用した選考や複数回の選考機会の創出など柔軟な対応の推進を要請したものである。

また、4月以降、企業・団体等との対面での情報提供・情報交換を中止していたが、企業・団体等からの訪問要請に対応するために、7月20日からはオンラインでの面談を開始した。

6. 今後の課題

以上、本稿では、新型コロナウイルス感染症対策を契機としたオンラインによるキャリア支援について、

約6か月間に渡るこれまでの取り組みについて述べてきた。

種々のキャリア支援をオンライン化したことによって、対面状況での支援よりも改善したことがある。例えばセミナーでは、録画した動画をオンデマンド配信したことにより、前年度同時期に開催した対面形式でのセミナーよりも、視聴者ベースで約20%増加した。また、オンライン個別相談を実施したことで、キャリア支援センターから離れた星稜キャンパスにある医学部・医学系研究科の学生の利用率が6.0%から14.3%に増加した。これらは、時間的制約や地理的制約から解放されるというオンラインならではのメリットが顕在化したものといえよう。

その一方で課題も残されている。オンデマンド配信のみのセミナーでは、セミナー演者と学生との双方向コミュニケーションが難しい。今後は、リアルタイム型のオンラインセミナーの開催についても検討する必要がある。また個別相談についても、対面相談とオンライン個別相談との併用や、相談時間の延長や相談予約枠の増加を望む学生のニーズへ対応していくことが欠かせない。さらに、OB・OG名簿の閲覧、公務員試験の過去問題の閲覧、就職関連書籍の貸し出し、職業適性検査の受検等、現在対面状況を前提としているキャリア支援についてもオンライン化を検討する必要がある。今後も継続的にPDCAサイクルを繰り返し、キャリア支援に対するニーズに応え、学生の満足度を向上させていくことが今後の課題である。

謝辞

「オンライン個別相談の利用に関するアンケート」に回答いただいた学生の皆様にも心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 松田英子・岡本悠（2008）「教育相談におけるオンラインカウンセリングの利用可能性に関する展望」、『メディア教育研究』第5巻，pp. 111-120.
- 中川純子・杉原保史（2019）「学生相談におけるオンラインカウンセリングの可能性—ビデオ通話・音声通話・テキストによる心理相談の試験的導入—」、『京大

学学生総合支援センター紀要』第48巻，pp. 19-32.

日本学生相談学会常任理事会・学生相談における遠隔相談導入に関する検討チーム（2020）「学生相談において、遠隔相談（Distance Counseling）を導入する際の留意点 Ver.1.03」，https://www.gakuseisodan.com/?page_id=3758（閲覧2020/8/13）.

岡本悠・松田英子（2008）「ビデオチャットカウンセリングの有用性に関する検討—対面カウンセリング及びEメールカウンセリングとの比較—」、『メディア教育研究』第4巻，pp. 91-98.

東北大学キャリア支援センター（2020a）『令和元年度東北大学キャリア支援センター年報』.

東北大学キャリア支援センター（2020b）『東北大学キャリアガイド2020』.

東北大学キャリア支援センター（2020c）『保護者のための就活支援ガイド 2020年度』.

富田新・林洋一（2018）「電子メールを用いた学生相談システムの有効性と問題点について—アクション・リサーチによる検証—」、『いわき明星大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇』第3巻，pp. 3-16.